

地理学Ⅱ

1 はじめに 具体的によくわからない人のために

秋学期の地理学Ⅱは、世界の地誌学が中心になりますが、都市や民族、格差・分断などグローバルにかかわる主題的なテーマは、各地域で事例として説明します。コロナがなければ、世界に行こうがテーマの科目かもしれません。今の大学生くらいの人たちは親の世代、祖父母の世代より海外体験（海外旅行）がないといわれます。とはいえ、大昔は団体旅行が中心でしたが、親の世代からは変わってきていると思いますし、短期も含めると海外留学は皆さんの世代のほうが上といわれています。個人的には、日本語のできない地域で苦勞すると、語学も別な見方ができる気がします。大昔、ドイツのホテルのフロントで第2外国語だったドイツ語で話したら、ばーんと英語で返された覚えがあります。このときにドイツ人をはじめ、EU各国の人は多言語話せるのがあたりまえという実感しました。最初はツアーでもいいですが、いつか時間がある若いうちに、バックパッカーまではしなくとも、個人でエアチケットを取り宿泊もネット予約で旅立ってください。もちろん、おカネがなければ近隣の東アジアでも構いません。今どき、通訳アプリは重宝します。オフラインでも可能なように・・・

担当者は、海外研究はアジアがメインで最初は東アジアから始め、文字化はしていませんがASEANなども研究対象です。一部の国は、ゼミ合宿などで学生も連れて行っています。欧米は正直研究としては本格的とは言えません。さて、アジアの発展は目覚ましいもので、20世紀後半の中国と今の中国では全く違ってきますし、残りのアジアも同様です。日本だけが1人当たりのGDPもどんどん抜かれ、時代から取り残されているような気がしますし、耐震建築関係からもありますアジアの主要国の大都市より東京の方が高層建築は少ないです。コロナで3年以上は海外に行っていませんが、今年はインドが中国以上の人口になり、今後どのように変化していくか、ウクライナ問題から露呈したエネルギー、環境問題、さらには欧米の分断社会などもどのようになるのかは非常に興味のあるところです。トピックなどもあるため、シラバスとは若干違うこともあります。左 ミャンマーマンダレー 大学生 右カンボジア シュリムアップ近郊 フリースクール教室



2 成績評価のレポートに関して

都心の大学ならではの・・・見て実体験して考える

中間レポートは 年によって違いますしコロナの影響もあったため、去年は後期の地理学Ⅱでは大久保、新大久保を見るということをお願いしました。いわゆるエスニックタウンです。フィールドワークまではいきません。心配しなくてかまいません。いわゆるエスニックタウンです。ふつうはマスコミ的には韓国人街ですが近年は変わりつつあることを自分の目で見て 実体験してもらいました。最終レポートはやや理論的なモノも取り入れています。インバウンド観光がもてはやされますが、現実には地方にまで経済的波及効果はコロナ前でもあまり来ておらず、現実はお金は都市型の東京、京都、大阪に流れますし、日本人はなかなか外国人観光客と話そうとしません。

3 AL GD/GW に関して

一方的講義ではありません。春の地理学Ⅰ、地理学 LC、LD もほぼ同様です。AL とはいえ、残念ながら、プレゼンをやってもらうわけではありません。基本はランダムにグルーピングして学年、男女を問わず、知り合いを作ること、コロナ下で孤独だったりした**学生の居場所作り**と考えてもらったほうが・・・最初は知らない人とはいやだと思いかもしれませんが、最終目的は多様性、自分と異なる考え方の人もいることを理解できればと思っています。アメリカのスタンフォード大学の入試で「将来のルームメイトに手紙をかく(自己紹介)」という問題がありました。

<https://www.nhk.jp/p/ts/3MWXJL2V4J/episode/te/6646KYVJYP/>

本格的な GD/GW までには時間がありませんが、話したほうが 眠くなりませんし、出会いがあります。いつかプレゼンで元思っているときもあります・・・

追伸 (仮登録すれば見れるらしいので) 授業開始日までに、可能であれば動画等で 授業支援システムに上げておきたいと思います。必ずご確認ください。ちなみに見てからやめても構いません。

担当 前川明彦